

第23回公正取引委員会契約監視委員会議事概要

- 1 日時 平成28年12月2日(金) 10:30~11:50
- 2 場所 中央合同庁舎第6号館B棟11階 公正取引委員会 官房第2会議室
- 3 出席者
(委員) 小西委員, 田中委員, 田辺委員
- 4 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 調達案件の審議
平成28年4月1日から平成28年9月30日までの間に締結した契約のうち, 各委員が抽出した調達案件5件について審議が行われた。審議の概要は別紙のとおり。
 - (3) 閉会

意見・質問	説明・回答
○ 下請法のインターネット講習用動画の制作業務（入札（総合評価落札方式）案件）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本件は、総合評価落札方式の入札だが、技術点と価格点について、どのように評価して落札者を決定したのか。 落札率が低いが、これは、落札業者が利益率を下げて応札したとみるべきなのか、それとも予定価格が高かったとみるべきなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各社の技術点には大きな差は出なかったため、価格勝負の入札となった。受注業者は、価格面ではかなりがんばったのではないかと思われる。 技術点で大きな差が出なかったのは、プレゼンテーション後、その場で評価する方式としたため、評価のための時間が十分とれなかったこと、「よい」（10点）、「普通」（5点）、「悪い」（0点）という3段階評価が中心で、選択肢が少なかったことにあったと分析している。今後同様の入札を行う際は、5段階評価、10段階評価といったことも検討したい。 ・ 予定価格は、過去の同種調達を参考としつつ、複数の業者から参考見積りを徴収し、これらを総合的に考慮して設定した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本件のような業務は、人件費を積み上げれば予定価格を積算できるというものではなく、また、参考見積りを徴収しても、質の高さを求める業者とそうでない業者とでは、見積価格に大きな差が出てくるので、予定価格の妥当性について、それほど気にする必要はないと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格が安いことはよいことではあるが、本件のような業務では質の高さが求められる。 本件動画はYouTubeにも掲載しているということだが、視聴者からはどのようなコメントが寄せられているか。 また、本件の担当者として、制作された動画には満足しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コメントを記載できるようにはしていないが、YouTube視聴回数も多いことから、一定の満足は得られていると考えている。また、動画の貸出しも行っているが、貸出先からは、分かりやすいとの評価を得ている。 動画の制作に当たっては、受注業者からの提案に対して当委員会の担当者がデザイン等も含めた細かいところまで修正指示を出した結果、内容の正確性等、一定のクオリティは確保されたと考えている。しかし、当初期待していたデザイン面での事業者による創意工夫といった点については満足でき

	<p>るものではなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式においては、技術点と価格点の評価のバランスが重要である。本件のような動画制作といった一定の品質が求められる事案については、技術点の配分をもっと高くしてもよいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式の場合、総合点の3分の1以上を価格点とするという運用を行っており、技術点と価格点の配分については、個々の事案に応じて適切に対応したい。 また、より技術や品質に重きを置くということであれば、企画競争方式もあるので、個々の事案の内容に応じて、適切な方式をとるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 動画については、企画書やプレゼンテーションのみで、その事業者が、アイデアに優れたクオリティの高いものを制作できるのかを判断することは難しいので、例えば、入札参加業者に過去に制作した動画を3本程度事前に提出させ、それを見て評価するなど、事業者のクオリティの評価がきちんとできる方法を考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 類似業務の請負実績を示す資料の提出は求めているが、動画自体の提出は求めなかったもので、今後の参考にしていきたい。
<p>○ 平成28年度荷主と物流事業者との取引に関する書面調査に係るコールセンター業務（入札案件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 問い合わせは、書面発送後のいつ頃がピークとなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に書面発送後と書面提出締切り近く問い合わせが多い。コールセンターで対応できなかったもの、コールセンター開設後の問い合わせには当委員会職員が対応している。
<ul style="list-style-type: none"> 本件業務は、人件費が主であり、予定価格の積算はし易いと思うのだが、落札額と予定価格に差が生じたのはなぜか。 また、落札した業者の業務内容には問題はなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本件の受注業者は、初めて公正取引委員会の業務を受注した業者であり、受注意欲が強く働いたものと思われる。 業務は特段の問題もなく履行された。
<ul style="list-style-type: none"> 本件業務の内容、予定価格からすれば、規定上はDランクの業者が入札参加対象となる業務ということだが、なぜA、B及びCランクの業者も入札に参加させることにしたのか。 また、実際に入札に参加した業者はどのようなランクの業者だったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査票の発送数が多いことから、一定規模のコールセンターを設置している業者に対応してもらう必要があり、Dランク業者のみを対象として入札を実施した場合、応札者なし、又は一者応札という事態が想定されたため、入札参加者を確保し、競争性を確保するために参加資格を拡大した。 入札に参加したのはA、B又はCランクの業者であり、Dランク業者は参加していない。

<ul style="list-style-type: none"> ・ Dランクの業者が入札に参加していないのは、Dランク業者は公正取引委員会のホームページに掲載されている調達情報を見ないからなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調達情報については、ホームページの外、会計室の出入口や電子調達システムにも掲載している。本件入札にDランク業者が参加しなかったのは、コールセンター業務という業務内容によるものと思われる。印刷製本や調査データの入力・集計などの業務の入札においては、Dランク業者も参加し、落札している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 競争性を確保したい、また、確実に業務を履行してくれる業者に発注したいということは理解できるが、一方で、官公需法においては中小企業の受注機会の確保を求めている。これらのバランスも考慮して入札参加資格を設定するようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の入札案件における中小企業の参加状況、落札状況を分析するなどして、今後も両者のバランスを考え、入札参加資格を設定していきたい。
<p>○ 平成28年度定期下請事業者調査に係る宛名データ作成等作業の業務委託（入札案件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年同様の業務を発注していることから、実態に見合った予定価格が設定できるのではないかと思うが、なぜ予定価格と落札価格が乖離してしまったのか。業者がコスト軽減のための工夫を行ったということなのか。それとも予定価格の高かったということなのか。また、業者が作成した宛名データ等に問題はなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの受注業者は宛名データを全て手入力していたのに対し、今回の受注業者はOCRソフトを用いて入力を行っており、また、今回の受注業者は官公庁発注の業務を初めて受注しており、受注意欲が強く働いたのではないかと思われ、これらのことから落札価格が低かったのではないか。 なお、最終的に納品された宛名データには問題はなかったものの、当初の宛名データにはミスが多く仕様を満たすものでなかったことから、やり直しがかかりあった。受注業者は、OCRソフトの読み取りでは入力ミスが多く、見直しに時間がかかったと述べており、今後、入力方法等について仕様書で何らかの記載を加えるべきか検討する必要があると考えている。
<p>○ デジタルフォレンジックソフトウェアの購入及び保守（入札案件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本件入札が不調になった理由は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の同種調達を参考としつつ、業者から参考見積りを徴収し、これらを総合的に考慮して予定価格を設定していたが、予想以上に応札価格との間に乖離があった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 応札者が限定される案件の場合、随意契約に切り替えて、業者と価格交渉を行った方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計法令は、国にとって最も経済的な契約とするため、一般競争入札を原則としている。デジタルフォレンジックソフトウェアを取

	<p>り扱っている国内業者は限定されているものの、過去に行った同様の入札では複数者が入札に参加しており、競争業者の存在が明らかであるので、一般競争入札による調達が適当であると判断した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 仕様書において、特定のソフトウェアメーカーの製品を指定しているのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> 当委員会において使用しているシステムに対応するソフトウェアは当該ソフトウェアのみであるため、メーカーの指定を行った。
<p>○ 平成28年度政府共通ネットワーク側ファイアウォール装置の借入（随意契約案件）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 政府共通ネットワークとは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府機関間で通信を行う際には、より安全性を担保するため、いわゆるインターネットによる通信とは別に、政府機関内の広域ネットワークを利用した通信を行っており、これを政府共通ネットワークと呼んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> 執行予算の平準化を図る観点から、これまで契約していた業者から12か月継続して借り入れることにしたとのことだが、執行予算の平準化を図るといのは具体的にどういうことなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度は公正取引委員会LANシステムで使用しているファイルサーバーの更新といった優先度の高いシステムの構築を行わなければならない、平成28年度の情報システム関係予算はそのための費用に当てることとし、本件装置については、平成28年度には更新を行わず、これまでの契約業者との借受契約を1年延長した上で、平成29年度に更新を行う計画としている。